これを偲めぐりといふ

○山田より二見の順路

河崎 船江村の枝也山田より二見に至る右の二里 宮川渡より此まで二里半余なり 此地毎日魚市あり民屋広く甚賑し

伊勢躍に河崎音頭などゝいふあり 宮よ路る舟楫の便よき湊なり

○河辺里 河崎の古名也

新名所歌合 とむ人やなれはまつに集らん河辺の里に飛ぶ蛍かな 荒木田尚長

二軒茶屋 河崎の継還にて茶屋あり又山田吹上町より小案坊を経て宮に至る道もあり 此所より舟をとり大湊神社并二見辺へ見物をするもよし

黒瀬 なる所の方之 二軒茶屋を右の森の内に社あり此村の氏神也橘諸兄公を祭るといふ

常柑子 宮の傍にあり 南都興福寺の橘と同種なり 其実甘て小也 俗云菅原興福寺の橘 そのちざやーしと記

毎年天子へ貢ずる小此実を求めて代りとなすりなる献下されけるとぞ

おのころは伊勢にある人此をほまてたより嬉しさ花柑子哉

按るに此ならの謡りなるべし 此歌は慈鎮大僧正の詠にして慈鎮は天台の座主也 此歌は末ぐ柑子紀人の選りしより渡会なるべし ○諸兄公の母は県犬養宿禰三千代とて伊勢の人なり故に此所に宮并柑子の古跡并橘の由緒ある故なりて諸兄に於て万葉集に見ゆる

万葉集 橘は実さへ花さへ其葉さへ枝に霜ふれどいや常葉の木 聖武御製

伊勢ノ三郎義経に見へて主従を契る

鷺島 一二町程の隣にある小松多くし鷺の形に似たり ○やどりが隣右の方にあり ○御座石 其西一町ばかり其由緒詳ならず ○丸山 同所にあり

○亀ヶ森 一町ばかり上方程の隣にある亀の形に似たり東の方二町ばかりにあり ○姫小松 東の方三町にあり

伊勢三郎義盛宅地 三津村より東の方 山の麓十禅院といふ寺の竹林の中 義盛旧跡 これは江の三郎
もとは江村の産なれば号く後国名となり常て始まる親を殺すを罪によりて之を
獄に繋がる赦されて身に及んで上野の荒蘭に住んで強盗を生業とす義経奥州へ赴く時
義盛が家に宿つて義盛が容貌奇なるを以て語らつて遂に相従ひ君臣の好みを結び其後木曽の
義仲并に平家追討の為京師に至る時三郎先陣として又西国八島壇の浦にも軍功
多く宗盛父子を生捕りにす義経都を去るに及んで不審ありとて伊勢国に
守護首藤経俊を襲ふ経俊これを拒んで鈴鹿山に戦ひ遂に義盛自害す ○硯石 山の後にあり石
あり伊勢三郎が硯といふ苔むして蕨まとひて面積二尺
中に掘りてくぼまる所に自然と水たまりて旱にも干ることなし ○とさう岩 硯石の上にありてさうるまさる岩なりとぞ名とも

立石 立石隣の前の村 此ところより御塩殿へ行く道あり 宇治山田の人々立石隣
あり茶屋あり ゆゑに後ところ侍ての茶やと
休息所として尚酒飯等味をうりて
興ある事甚盛んの屋楼立並ぶ

堅田社遥拝所 立石村出はなれの右の傍にあり 一町余り入て農家の内に社あり 祭神佐具都比女命一座 内宮末社の
内也 式云祭神二座 速方堅田神 大倭姫皇女也といへども未詳

出口村氏社 堅田社の向ふにあり 出口村の産土なれども社と称す

音無山 此名不当 国に二ツあり 一ツは外宮神前の山 一ツは二見の山也

二見の吉祥ハ鴨長明が伊勢記に
二見の吉祥といへるにのぼりて遥に海山を見るに東ハ三河遠江は駿河をぞ見越て富士の山かのぼりて見西良に當つて甲斐の白根信濃のみさかあり北に美濃尾張のさかものより加賀の白山見西乾に多度の山鈴鹿の三ツ子山西に布引山にのさか山伊賀国の山ども名もしれず南ハ朝熊山志摩国の方え朝熊川を隔て廣川の横根と云山あり其山の西のたるに鵜の宮神しまを海山も遥に見え渡りてなん　云云

歌云二見かけていづこを見て云中らん去俗も見をとらば宮に山荘のるさん山ありこれらん面白しとは云へた
ちかき山ふそ長明が尋るまいらるなれど歌云西行法師の住給ひし安養山と云高山ハ見まろそろり即長明がのぼりし時も西行法師の住給る安養山とと云所に人々歌連ねるなどして大中臣又西行なとともるひてのぼりけるとみへたりつづき世菴室をさるらんなるべし名高るに

松やにつらね風やむかしの風ならぬいつまで此秋の音なしの山

太夫松ハ伊勢三郎が鐙掛松と云高見山の上にあり大空を手枯木となる長が城跡へ有り古夫松の名あり　廻船の目印とす　○城跡　伊勢三郎義盛が宅と云ふあやまりなり仁木左京大夫義

○是より二見浦立石濱にいたる禊をし拯し是を船路の列に加へてそこに着く其船路の地を川ぎわより船を出して浦々渡りて至る

二見三津
三津浦

高良山
常泉院

ぬさとてく丁をとら緒の菜此處のかぎり数神ゐるが千代も絶べからず
上古のならひにきよ神からまつるとて弓をもてせし也捧巫るどの弓もて神拝しまつれも此都びとうちて

五峯山密巖寺
三津村にあり本尊十一面観音立像佛通禪師開基　五峯とは從耸なる岩又つみあるなり

三津浦
又三津の入口 三津の濱ともいふ　舟はしかゞ家を引舟のまゝしとふ　俗よくり来とふ二見郷三津村の東の方にあり

山家集　伊勢にまかりたりけるに三津といふ所にて海辺春望といふ事を神主どもよみけるに

過ぎぬ春塩のこしかたより船出して浪の花をやさきにたつらん　西行

夫木　我もさぞ庭わたりかし伊勢濱や雄の人をとふ方の浦波　長明

濱荻
三ツ村の左の方に古跡あり里人の云行業にて古ありかなり此辺にては濱荻といふもて今は僅ばかり田の中に残るを就云處云里太夫に謡まり此國の人の芦を云て濱荻といへるは古き諺にて即國の方言なれば伊勢の濱辺に生ふる芦は濱荻と云べし古跡といふべからぬ此芦は沿るかなり

難波集連歌　物の名も所によりてかはりけり　難波の芦は伊勢の濱荻　救濟法師

又按るに芦を荻といふ事あるて上古にはつくにも云ひしかるを此國にかぎりし詩作るとみは芦荻とつづけて一物と其余瀧樓圖書之

第五集　神風や伊勢の濱荻折しきて旅寝やせらん荒き濱辺に　讀人不知

歌占

俗説に三津村度會家次が
末葉に歌占の古風を傳へしる
軟弓に絃をかけてし
それは謡曲に著作せし
歌占も二見の太夫家次
といへる其實否は
しらざれども法國一見
の途に頓死してやがて
蘇生し白髪となりて
占の縁起として我子幸菊
狂にめぐりあひ且地ごくの
物がたりをさへつくりし
は是に伊勢や日向の
野居ともいふ様
なれや

田家の祖之國政不直の罪を蒙り此所に左遷し終に卒去す今に此村田家より祠堂料を寄らる其塚ハ五輪之塔竟入石ハ弥道に達して能書乃名あり　此所に戒名位牌ひしや息女と葬し法名白玄帳にあり　また茶会丹もこの家へ秘方を傳へらるとぞ

○同寺に福原右馬助墓あり　此碑高サ四尺余横二尺五寸苔むして文字不明

○一任殿順積道薀禅定門濃州大垣城主福原右馬助慶長五年十月二日

○心誉一諾居士家臣福原喜三郎　○又真得如珍居士家臣名字不明　碑三ッ有

〈朝熊村西の方川辺より小橋を渡り右へ行ば二見乃道と行ハ宇治田楠辺村に至る

山田乃道朝熊村を出て一宇田村へかゝる所の雅中分右へ行ハ東鹿海村に至るなり

小朝熊社　鹿海村東にあり　儀式帳にハ祭神櫛玉命若衣神朝熊水神三座也今ハ櫛玉命大歳神大山津見命を加へ六座とも内宮摂社二十四座乃其一也　寛文十年大宮司精長朝熊旧地をもとめ再興ありしなり記者ハ朝熊の岳に在しけるが何のゆゑに小朝熊へうつしまいことさだかならず所に出せし　来諸記の文をとりて実をうえあいをぞべし

春風に岩根のさくら咲ふびに浪の花ちる朝熊のみや　祭主 定忠

○朝熊岑　小朝熊の宮の東 宮川村にあり

名所 ○ 楓本里　これも朝熊村に属せり今もさとの田の字にめりとひろる川村にあり

夫木 いかでせんかゝる浅瀬にあふちさくなさま朝熊のあさ衛しの代や　中務卿親王 宗尊

新名所歌合
ゆくまや神代より咲花のたえぬ心ぞとまりさくらも来たるさと　荒木田尚良

鏡宮（かゞみのみや）朝熊より又西鹿海村の内並川村尾流に在り　石上御前（へいはうごぜ）の社と云是ハ小朝熊の社の神鏡を祭りたる所也　神鏡のことハ正治年中の解文（げりん）に見ゆ　社殿并ニ神鏡も乱世の時故なく廃亡せしを寛文年中大宮司精長社殿造立の時土中より神宝の形なるもの多く掘出せし内に一ツの古鏡あり　依之神鏡なりしことをきはめて新殿を遷立し鏡を納んとするに此小蛇自ら新殿の内に蟠居せしかば人々恐驚して今に鏡と共に神体と祭れりと云　此所に獅子岩汐干石等あり

続拾遺
神代より光りをとめて朝熊やかゞみの宮にすめる月影　隆弁

蛭川山（ひろかは）朝熊山乾の方也昔朝熊宮此所に在　俗にヒルカウ山又ヒルガウ田といふ　長明伊勢記にひろ川の横根といふ是也
月もまづひろ川山に雲消てひかりもみえぬ塩合の里　長明

鹿海社（かのみの）西鹿海村田中に在　不知稲依比女命（いなよりひめのみこと）の社　大歳神の御子　一座内宮の摂社十五所の内也

汐合（しほあひ）通縄より二見への江河之又十頭川の末にて東西の湊より落る汐の寄に行合たり　俗にしほあひといふ　私云此汐の干ゝる時ハ歩行にて渡る又はし塲の辺りに茶やあり左り也　両大神宮の御塩を汲む瀬あり此所を過て一二町斗行けハ　○**破石**（われいし）右の方にあり巨石なり
左の方指こし濱へ行ふきて本道分八丁之処の傍にお鉄濱と標石在

○**汐合濱**（しほあひのはま）汐合とハ大ミなと神社の沖より満る汐と松下江村より出て来る塩と行合故なる名付しなり　今ハ江村の方よりの塩路もむもれて行あふところもなく

夫木
月ハまづひる川山に雲消て光もみちぬ汐あひの里　長明

古座

小朝熊社
鏡の宮
往古ハ朝熊河の流こゝに當て
瀧川へ落あふ所の水ぎハ
葦原の中に岩あり其岩の
上に神鏡二面往古ハ座を
ます櫟の宮の前御木の櫟も
岩の上に生立ありしとぞ
今櫟鏡ともよぶされバ
岩のうへをもきうちさし
此故に小朝熊六座を
櫟の宮とも鏡の宮
とも申すなり
汐干
鏡の宮

其二
宇治より下条石まで
六十町

岩舟
いそべ道
丸山道

朝熊金剛證寺
あさまこんがうしやうじ
方丈

弁天
十三佛

朝熊奥
吾海庵
冨士見臺

曾聞人說思重々
呑海庵前望士峯
四十由旬半空雪
雲間一朶玉芙蓉
村庵

蓆の碁盤は秋田城之介泰盛の差上にて四辺に西湖を画きて其制巧なり徂徠草蓆の碁盤と
いへる銘はおかしきまし碁石の盤なりしをとらへて其碁盤と号しけるとや

○求聞持堂 又これを明星堂ともいふ密宗の僧虚空蔵求聞持法を修するの室にて来り 求聞持法は口授あり其は真言秘記を武あり清浄不二にて修するの行法他邦にはなし ○文殊堂 ○極楽橋 石橋を架る あるこさ川にて昔は板なりし ○熊野三社宮 ○子安地蔵堂

○阿弥陀堂 ○二王門 往古此門に勝峯山の額あり額は鮮梅隠が書なりしが今は朝熊岳と改む二王は左空海右実恵の作 ○連珠橋 反なり池 ○はきまの池 竪十間よこ十六間許 池中に宝石といふ 即御手洗の池なり二王門の前にあり

よく知る 勢陽雑記天照大神の御詠とぞ
こゝに涼しき朝熊れ乞う通ひくれ法のつま庭の橋の夕くれ

○雨宝童子宮 池の左にあり本地天照大神と云へり ○明星水 二間四面の堂の前にあり ○手向地蔵 明星水と吾海院の辺にあり志ある人は水を手向る

○経ヶ峯 朝熊岳の絶頂をいふ ○龍池 六月一日の外人の行ねるといふ ○明王院 真言宗本尊不動明王護摩堂あり 此院は弘法より六十余代統を継といへり

○三基院 二王門の前にありて灌頂曼陀羅堂あり ○随泉院 左にあり禅宗なり ○与楽院 ○矢追地蔵 赤きの宝珠より出現し給ひしとぞ仏明天皇の御衣 ○観音院 又間四面明星水の右にあり禅宗なり をさめてましましまをといふ

○吾海庵 本尊地蔵菩薩 俗に奥の院といふは此金剛證寺の奥の院は一里ほと東 巽の方にあり左奥に庫裡寺とよべる是なり

天長年中建立にて禅宗地蔵堂三間四面なり 前に富士見臺有 勝景の一なり 鄒之松杉蘇樹鬱と生茂 堂下に松下汐村のつり舟 或島 漁舟などの漁舟何まのまにまにさならちらりまつへ尾張三河の嶋々もさながらにありて遠海まで見はるかし七里伊勢の海は北へさし入て其中の泉水のごとし関東又南海への船は是より順風に帆あげて往来常にあるれ蒼海そことなく おのづからさまよいなり

又ある時は心志らぬ山もいとたふとやかに見え侍るうれしき心も言も及ばざりね

○薬師堂 香海房の像 境内にあり ○涅槃塚 ○芭蕉翁の塚

神かきやおもひもかけずねはん像　はせを

○稲荷社 ○舎利堂 毎年八月廿三日供養あり 天竺伝来の舎利といふ ○開山堂 ○東岳和尚の像 毎年五月廿八日開山忌供養あり又毎年八月廿四日羅漢供あり ○七社神 毎年正月廿八日に開帳あり翁熊野の鎮守の宮にて法光院にあり○私云翁熊野宮六社の旧地なりまた古神宮を加へなりて七社とし弘法大師の時より佛宗を修せしといふて今の小翁熊の地へ神宮より移しなりしと

跡たえていく世へぬらん朝熊やうごかぬ杖の月のかけ　荒木田延季

▲是より回廊をまはり二王門へ出る又回廊とおなじく行ば往古の本にならべてく
堅神村へ出る一里之此所よりむかしの下乗石あり

▲朝熊のみねへ廿二町の坂を下る所に水茶屋みかせまゝけるげあり
釜木のさくら左右にあり象形つくるべし

朝熊村 嶽より二十二町下まで茶屋ありけ所よりも二町ほどありて二見え行には塩合よりつゞきたる道の左石碑へ入る左石塔よりそれ行径一里余又朝熊村と一宇田村との間に彼像あり左りは山田道なり右は鹿海道鳥羽道もあり

石城山永松庵 朝熊村にあり 此境内に秋田城之介実季墓あり 高乾院殿前侍従空巌深空大居士 万治二年己亥十一月廿九日 安部実季入道と記せり是ハ今奥州秋

朝熊峠（あさまとうげ）

古歌
大神宮御詠
古歌
いつも我を朝熊のたけよかく
人のうらひと
五十鈴川かな

楠部峠（くすべとうげ）

惠利原 ○本郷村 惠利原村の又上〻村ともいふ此所より朝熊嶽への道あり

伊雑宮 伊雑村にあり俗に磯辺村といふ内宮別宮の其一也内宮より三里 祭神伊佐波登美命玉柱屋姫命二座也

倭姫世記云古神宮御遷座の始伊雑の方葦原の中にたるの鳴声あらうつゝ倭姫使をして大幡主命と舎人紀麻良をつかはして見せしめ給ふに其中に一本ありて末は千穂に滋る稲を白き真名鶴の咋持て鳴りなから鳴かざりしかれども見顕をよ及んで鳴やとゞまり倭姫命宣給ひく事問ぬ鳥すら田作りて太神にたてまつるものをとて彼稲を伊佐波登美の神に抜穂に抜しめ大幡主女乙姫に清酒作らしめて御饌神に奉献彼生ひし所を千田と名つけ其所に伊佐波登美の神宮を造りて皇太神の摂社とさだむ彼真名鶴を大歳神と号けしは即此伊雑の宮是となんいへり

大歳宮 或は磯辺の高宮といふ又穂落の宮ともいふ祭神真名鶴なり稲を咋へるを落せし故に穂落といふよし似たり 穂落大歳訓 類聚に大歳宮 飯井高宮 穂落宮とあり

○飯井高社 祭神猿田彦大神といふ此外数多末社あり○穂落の池は稲を落せし所也

○御田宮は東にあり又月上旬吉日を撰みて田植祝ふ 此磯辺の宮中のまつりにて まことにめづらしき式なりといへども見へざるまつりなりし故に略をしるし本社は内宮別宮の内なれば志るすべき所なり

▲是より朝熊岳の道を記す 宇治楠山神の社の左よりのぼりて凡六十町なり

楠部嶺 宇治より十六町 茶店あり此所より左へ下れば二見ゐ楠部村へ出る 一宇田嶺 楠部村より十六町

○笹原嶺 茶屋あり ○弘法茶屋 法泉あり其水冬も涸ざす ○天狗岩 笹原の水の谷にあり形天狗に似たり

朝熊山嶽(あさまがたけ) 内宮より五十町 一宇田館より廿町 茶屋多し 二十余町下に朝熊村なり

神さびてあはれいく世になりぬらん波にみがける朝熊の宮

嘉陽門院 越前

参詣記云 寺々を一見して朝熊の宮にまいりぬ此所は倭姫皇女御とまりありて年久く星霜をおくらせ給ひし所なり神鏡を移させ給ひしより内宮へうつらせ給ひしとかや山の内にて(?)磯宮(?)の宮と申なり山中に宝殿を作りしかども朝日さらに百珠のかげをうつさず岸下の石をしめて晨月ととしなへに宮のひかりをこゝがれさせり此所をうつしよふそぶりくぶる ざれける樹木悉く庭にあり水のかゞりのかゞやきれる波浪これに擬よそふる心は明徳のおもしとぞ云

○岩舟辨財天 倍侍の右の方にあり 竪七尺 横二尺あまり二尺の石あり

○万金丹 世間茶屋より〻公祖は尾張野呂内海より出しかれどもかく いにしへより薬方は秋田城之介實季秘方を伝へしとぞ 是か丸山又智積院迎へ移る 又舟津より此所へ出る也あり

○下乗 これまで内宮より六十町 是より山中

勝峯山金剛證寺兜率院 禅密兼学にして塔頭十二坊あり開山数待和尚中興は弘法大師なり其後衰微せしを鎌倉建長寺又世東岳和尚再興す

務勝して海に あれに沈む

○本堂 九間四面 本尊虚空蔵菩薩○仏牙舎利塔 本堂の右にあり 三尺四方の宝殿の内に七寸四方高サ又寸斗の宝塔 内に長サ一寸八分厚サ七八分四方の舎利を安置す 昔聖徳太子天竺より伝来せしと 聖武天皇天平年中に此所へ安置をとぞ云

○左馬頭義朝の佩刀○ところ縁の其盤等数多の寄物あり 義朝の佩刀は世間茶屋より持来つゝしとぞ

倭姫命
覗咋穂鶴ヲ

其二
神祇百首
秋の田乃穂に落しれ
神行かしへを
狩り人が見し鶴の萬代
度會元長
神宮
千田

猿田彦神社
大歳宮
飯井高宮
穂落宮
猿田彦社
大歳宮

伊雑宮
俗に磯部の宮といふ

大楠
本宮
古宮跡

鸚鵡石 本名和合山

きゝ石の道にて
石碑あり

うぐひすや内外の
まねするあふむ石
東都文緑
合歓堂
不言

此石乃淋しさ
問ん杖の音
天柱今井
仲書

ぬけ石

合坂　相坂より又十町ばかりに地蔵堂ありて是勢州志州の境也　此所猿田彦の神倭姫命に出合し所合坂といひ伝ふとぞ

猿田彦森　合坂より下る　此森の坂のこなた行ば右に生入りたる所あるをいふ

瀧祭窟　合坂より下る中程右の方にあり　茶屋鳥居あり是より谷へ二町斗下りて岩窟あり

其穴に入る事凡十間ばかりにして瀧あり瀧祭窟と標石を立てり

家立茶屋　合坂の坂下り　此所磯辺村御師より参宮人を出迎ふ所なり

甑石　家立より二町斗　十余町斗　甑石は石の上に神石の石なり大晦日の夜湯気立といひ伝ふ

鼎石　甑石より二町斗下る谷にあり　鼎石是神の標石を携る石離あり是も神宮の物を煮よ

と伝ふと云　私曰中薬に石鼎と云て山人の器用とす　龍頭家膳ノ詩有

巧匠斲山骨　刳中事煎烹　直柄未當権　塞口自呑聲　下略

宮川　此名いづれの所よりいひならはせるやしらず

鸚鵡石　是を和合山と云　街道より三町　高サ十七間　横七十間　物の音を答ふる事石の姓の如し

おもしろき其名所なり是を鸚鵡石と云名石を発する所是をうけ石と云此外

名所も岩に藤かけ松あるとも所あり尚図上に出す所

家立茶屋
織田義太郎此地を開き
家作して始め住ひし
ゆへに家立の茶屋と
いふとて表の戸
一枚はむしろを

瀧祭宮
宇治山田みく
ます足を
風穴と
云

猿田彦森
大樹の杦を
まつりて
猿田彦杦
といふ

八百會遙拝所　子良の館の西の方左の石つゑ　八百万神を拝し奉れ

瀧祭宮　第廿六別宮也　子良館南の道の末左の方の石つゑをいふ　所祭沢女神又ハ美都波神共也

ていふへうう神殿ハなく石壇のミ也水の神を崇む又瀧の宮の本社ハ五十鈴川西の岸丸山の下に

さんが下又瀧ありこれを瀧祭のふちといふ此辺を又百枝といふ又守基神主神祇記又曰瀧祭ハ

荒祭宮に並びし崇秘の別宮にて神位も荒祭宮につゞけり然れども御宮なき故別宮よりハ

未入もあり瀧原並宮ハ一宗も入ぬまでば是を尊く加ふるなり

瀧之河並宮　瀧原の宮に並び座す

浪とみえ花のしら川えの岩枕瀧の宮居やまさともしらん　西行

仝

瀧の原ならびの宮乃神なれバ松末涼しく沖津白浪　為家

神宮雑記云　瀧祭の神にて河の洲崎又松枝なんどの一むら立てる斗にて御社もましまさず神体ハ水底に御座とかや云云

河原祓所　風の宮の橋より瀧祭宮との間なり　○神宮雑記云　五十鈴川と御裳濯川の落合さる所に松の御手洗宮のうしろの神宮出しこえ出しまゐりて御祓ありて新にみなへ入する先に河原御祓と号く帝王御即位の式と云云

落合川原　瀧祭の拝所の前の河原をいふ

続門葉集　伊勢の神詣ふの月拝の本をさしかくまつるとてもそれの河の落あひの川原にてふけるとおもへゆけれバ

月はなほ神路の峯より出ぬらし御河のよしにうかげそまじしき　前大僧正通海

河合社 遷宮石壇の南河合にあり 豊受細川水神 儀式帳名社十二所の内にして御遷宮乃時神宝を遺し奉る所也 右是までの所は参宮する人は是より一の鳥居に出て禰宜の宿館の横手より御厩にいたる又風の宮のうしろを通り玉丘へ出る人ハ子良の館の山の上の並木のさくらある所を行て御厩にいたる也

御厩 後町にあり 古ハ内外の御厩二所にありしとぞ 神馬ハ今ハ鶏座より進らせられしを代中絶して今ハ尾張家よりと久世家よりと更代に進らせらる之 首

御馬飼内人とて此役の職掌ありしが中古より絶えて今ハ御下升代 御馬飼内人再興ありしとぞ

高倉殿 は石壇にあり 御遷宮の時古ハ御船代御神宝などの携擬しけるを収め奉られし御倉の跡なり

山神社 宮治橋の東山の麓にあり 祭神大山祇命 此所を石井田といふ又高倉数多立並べり又傳にて子安の神社あり木花開耶姫を祭る此辺俗家飴を販く美味名産之

石井神社 石井田にあり これを巌の社とも云 儀式帳名社十又所の内之 豊受神末社の所也

荒木田氏社 此所にあり田辺郷に鎮也 此間ハ逆年田辺山辺に社ありてまつり又此傳に守武社あり
荒木田の祖神ハ天見通命 中頃ホとも云いふも此神の裔孫也
左に守武霊神を此宮居にうつしまつるや

○守武神主ハ大永天文の比内宮の長官荒木田氏にして發句之さらに連歌

御贄小屋（おんべこや）

御池 廻り凡百八十間あり遥拝所の（石橋を渡り其之間あり此水と云）○河島神社遥拝所 滝原附属の社なり

桜宮 大石の右の方石壇なり 所祭木花開耶姫命之（桜御前とも云 小朝熊の内桜大刀自神なり 神殿なくして只桜の一本を神体と崇む）

則小朝熊に坐しませば此に併せ遥拝を

続古今
神風に心やすくぞまかせつる桜の宮の花のさかりは　西行

○河原神社遥拝所（所祭瀬織津姫命歟 本社度会郡尾村にあり 滝原宮附属の神之神号未詳）桜の宮の辺にあり

由貴殿 一殿の後にあり ○酒殿（神酒を造る酒屋なり）此二宇共酒殿の院内之 此酒殿よハ天ノ逆太刀天の逆鉾を納む深秘の旨ありとぞ 又三祭の節夜毎に献ずる御饌に用ゐる物総て収むる院之 由貴とハ斎清むるの名也（三祭ハ六月九月十二月の神事なり）

朝廷遥拝所 由貴殿の傍桜宮の西の石壇之 帝を拝し奉る所なり

子良館 二の鳥居の右に入て右の方（風の宮 桜の宮の前にあり）子良物忌父子の宿館之 子細外宮に同じ

附言
慶長十二年国母より内宮子良の館に貝おほひ桶一具を賜る事あり今に被伝ぬる
其貝桶の蓋のうらに双方を紙ありて其詞云
神風やいすゞの川のみなかみのうちに子良のつとむる者あり 朝夕の神つかへの外の隙に
なぐさむべきかの石のうへにてあそびものよしとてかくてげたまはらん 国母仙院より貝
桶をたまふ 然る後大中臣輔弘がきこえにて中臣松のむらさきて顕しくらんも石うら
このたみのやしきありしハせられたる右にまうちけるうちの名の二つんもとの桶にもよりあ

あらみやあかせなうけ給りてくゝみちしるしをつくゝまつりし神のみたちん
良恕親王應干勅書
かくしのふさみち

玉くしけふたみの浦の貝ましけきまなこに見ゆる松のむら立　伊勢の国二見の浦にてよめり
大中臣輔弘

五十鈴川橋 長さ廿七間 俗に風の宮の橋といふ。此のかみに架橋あり。僧尼のまうで不なり。橋の前後に鳥居あり　擬宝珠ハ造営毎に新に制を改るに東西の朝なりしハ改むる也　これに明應七年の年号あり

僧尼拝所 五十鈴川を隔て本宮の向ふにあり　子細外宮に同じ

風宮 五十鈴川橋より右の方にあり 内宮第七の別宮。子細外宮に同じ　風日祈の宮といふ。今も七月より是に祢宜内人を牽ひて風雨旱災の停止を祈る

末社 風の宮の東南に十一社あり 上六十九社に合して八十末社といふ

氏神社 祭神天見通命荒木田氏 本社田辺郷岩井田山にあり ○久母宇津神社 祭神大水上児蒼彼大刀自神 熊淵神社本社御裳濯川上霊谷にあり ○山神社 祭神大山祇命本社 宮山の内にあり ○国見神社 祭神彦国見賀岐建与束命 本社同郡山田原邑にあり ○石登宇神社 祭神未詳神号未詳○武彰川神社と称すを本社神路山の上にあり ○鏡石神社 祭神未詳 ○山宮神社 祭神天見通命本社津布良谷及中村東小谷に在て遥拝の所なり ○矢野神社 祭神雅日女命本社同郡矢野村にあり ○天神社 祭神天照本社同郡中村にあり ○熊淵神社 祭神大水上児彼大刀自命本社同郡熊淵辺にあり ○御裳裾神社 祭神〇〇神社地荒にて未詳

已上十一社

御遷宮

新後拾遺
後九条前内大臣
世にあまりたてし内外の宮柱たかく神路の山ひろうてりし
此図は其府を見留めしにはあらねどして古人の図を模せり然るは杜撰闕記なくもあらじよて識者の教示につきて是を改む尚後日の改刻によるべし

上にありて今ハ弁山神 ○五十八魚見神社不知祭神 同廣見命 或玉姫 本社同郡魚見村ニあり ○五十九村田比女神社

不知祭神 村田比女命本社 国津御祖ノ社ノ内にあり ○六十川合神社不知祭神 細川水命本社 川相渕辺ニ治定こ也 ○六十一伊佐奈弥

神社不知祭神 伊弉冊命本社中村西ニあり 長寛勘録ノ文ニ無社地と云 或云中村より入る所社 ○六十二国津御祖神社不知祭神 比女命 国

生神児又田村比咩命二坐 大土御祖 ○六十三坂手国生神社不知祭神 高水上命本社 社社地良方 或云同郡楠部村ニあり

○六十四彩川神社不知祭神 彩川比女命 大水児 社地未詳 川合社ノを辺ニ在 ○六十五大土御祖神社不知祭神 大国玉命 水佐々良

比古命 佐々良比女命 本社同郡楠部村ニあり ○六十六佐々牟江神社不知祭神 未詳 本社同郡大淀村ニあり ○六十七荒前

神社不知祭神 荒前比咩命本社 社地未詳 或云同郡松下村ニ ○六十八速川比古神社不知祭神 須麻留女神児 本社佐 田国生社三坐内 多気郡田丸

於東 ○六十九狭田国生神社不知祭神 速川比古 速川比女命 多気郡佐田村ニあり

己上六十九社本宮の東南の角にあり 俗ニ奥のこやといふ

天津神社 ○国津神社 是天神地祇を祭る所 鳥居の左右ニあり

興玉神石壇 西面本宮の西北の角ニあり 興玉神と云 猿田彦を神として祭る所なり

西鳥居 是を荒垣西御門と云 玉垣御門の西ニあり

本宮古殿 也 廿ヶ年ニ一度遷宮 りくの古殿と云

御稲御倉 真ハ玉ね不 の向にあり 御稲を納る倉也 旧ハ二宇あり 今ハ一宇 おもてノ足を俗

ニ御機殿と称すれとも 御政印も此ニ納む 機殿よりおやまりて 年中 行事ニ九月十一日 御

ろすよ十日の夕よ御裲の御倉よおひらく織姫機を織るすを云う蚕番の御丁毎名水を汲で機屋へ道るなりとあるハ此末之是いつくの事にや

一元社　御稲倉の傍よあり　これも遥拝所なり本社ハ楠部村にあり　國津神社の別名なりともいへり

裏御門　ろ細外宮よ同し　○北鳥居　荒垣の小の御門よ云　○小玉垣御門○小瑠垣御門○若よ外宮に同し　此御門より荒祭の宮へ至る間东の山中よ一ツの井あり此ハ是を掬ふこれ御政印を押なする時用ゆる水なりとぞ

荒祭宮　荒祭宮の小の坂の上にあり　第一の別宮之和祭瀬織津姫命　又云天疎向津媛　則本宮の荒魂と祭るよ云り又高宮共云　別宮ハ皆萱葺にて千木鰹木御門御垣あ

荒祭宮の前ル東西の遥拝所。先正面ハ外宮と拝をつ又西小の隅よ向て月讀宮伊弉諾宮瀧原並宮を拝し中を次よ东南の隅と拝中をハ伊雑宮之次よ又西北隅を拝し中て高宮土宮新月讀風宮高神客神小御門社外宮摂社末社○次よ又东北の隅よ向ひて拝し中をハ小朝熊社前社云

云○月讀ハ宮三町の別宮宮后中村よあり本宮より十八町○伊弉諾ハ月讀の西の方に並伊弉諾伊弉冊御同殿よいまをり　瀧原ハ第四の別宮不和祭速秋彦命なり並の宮ハ速秋津姫命之宮川の上野原村よあり　伊勢志摩の國境みて内宮より十里余なり　伊雑の宮ハ志摩の國之

○八久具都神社不知祭久々都姫命本社当郡久々村に在○九大神御瓱川神社不知祭大神御瓱川神本社当郡城田郷数井神社内にあり○十久々都彦神社不知祭久具都彦命上の久々神社内にあり○十一綵加利比女神社不知祭綵加利比女命本社月読宮南葦原社三社の内之○十二宇治乃奴鬼神社不知祭る水上命社地未詳○十三御裳濯比賣神社不知祭倭姫命上に云那自賣神社内にあり○十四湯田神社不知祭雷電神同郡湯田村に在○十五宮比神社不知祭大神宮出坐地辺神本宮荒垣内乾の角にあり○十六朝熊水神社不知祭朝熊水神小朝熊社三座の内なり○十七寒川姫神社不知祭大水回神寒川姫命本社多気郡牟弥神社内にあり○十八荒前姫神社不知祭婈々神志摩国安楽湊々にあり○十九大神御滄川神社不知祭大神御滄川神当郡城田御田辺神社内にあり○二十石井神社不知祭る水命岩本田上ゝ上にあり○廿一八東穂神社不知祭稲蒼本社地未詳神名不知○廿二堅田神社不知祭神名未詳本社当郡三津村に在○廿三眞名子神社不知祭眞名子神多気郡多岐原神社内に在○廿四葺多弖神社不知祭玉移良比女命本社在所不分明或云牛谷西作倉と云所に小社あり葺多弖神社跡未詳○廿五若虫神社不知祭若虫神小朝熊社三坐の内○廿六大歳神社不知祭大歳神社当郡破辺村に在○廿七毛受女神社不知祭未詳社地不分明或云今在家東馬淵下東岸にある毛須社是なり○廿八宇加御魂神社不知祭倉稲魂神葦原社三坐の内なり○廿九大歳御祖神社不知祭素戔嗚命湯田神社の内にあり○三十大神御船神社不知祭大島船神多気郡有尓御土羽村に在○卅一千依媛神社不知祭千依比女命大歳神持羅児当郡田辺御原村に在社之○卅二榛原神社不知祭天須麻留女命当郡田辺御田邊村にあり○卅四栖長姫神社不知祭大水上ノ児栖長姫命社地

石窟幽居(せつくついうきよ)

御杖代倭姫命是によりて美和の御諸の宮より諸國順覧ある遷幸乃次第は委しくしるしたれは見るべし 終に同御宇二十六年丁巳十月甲子宇治の五十鈴の川上に移しまつり相殿には天兒屋根命太玉命ましくまりて其後外宮御鎮座の時此二神を外宮の西相殿に定め給ふ○正殿を豊の宮又五十鈴の宮礒の宮とも朝日の宮とも申奉る一説礒の宮は齋宮の事也

玉葉
神風や朝日の宮の宮うつし影のどかなる世をそありけれ
鎌倉右大臣

神の代の事や豊のうちかはらぬ都の空も今朝霞むらん
度會元長

○心御柱は玉座の下に齋ひ鎮め給ふ是を天御量柱とも天御柱とも申奉れ深秘あることとぞ 文永二年八月十五日内宮御柱立に詣り侍りければ

續古今
宮柱立るこよひの秋の月又幾ちよかあふぐなるらん
荒木田延季

○内宮のうへ朝廷の義にして大内裏と云がごとし内宮は神の朝廷と云古事紀に出て御名を宇治といふは内の義也其は内宮に對して豊受宮を外宮といふは後世の流言にて延喜式には度會宮と云又内宮御鎮座の始は日本紀に垂仁天皇二十六年十月祭られたりとはあれども九月十七日祭るは古長暦と云拘らず毎うみて記ある也

神路山 宮域のめぐり东 一名大山 天照山 宇治山 鷲日山ともいふ
鷲の日山とは天竺霊鷲山に比しける名なればよりきるべき名にはあらで西行のおよりいひ出せるなるべし好んで呼ぶ名にもあらじ

千載集 圓位法師 高野の山を住うかれて後伊勢国二見の浦の山寺に侍りけるに太神宮の御山をば神路山と申大日如来の御垂跡を思ひて

ふかく入りて神路のおくを尋ぬれば又うへもなき峯の松風

御製 後鳥羽院御製

かくしおくそむかんまでもまもるかしよ天照山の杜の夜乃月

百枝松 内宮御神木にて神路山に在りといへり然れども其地詳ならず
西行上人の歌にみゆる所はもとそ川のながれ合ひしてはなれし所附

岩波もこゝもとそ川の末なれやきよ川え枝かけよ松の百枝よ　俊成

東宝殿 ○ 西宝殿 正殿の东西にあり子細外宮に同じ ○宿衛殿 本宮の搆へにあり昔は守宮といへるを守護一宮とも今は番宮のとのゐ宿直をする所なり

八十末社 本社の御前より左へ田ひぬ是も外宮の前に云がごとく略之 詳かならず其は本社の左右にごとく下にあらはす

○一 村澤神社 延喜式伊勢津彦命武外 本社飯野郡村沢村にあり ○二 多伎原神社 延喜式其名子神本社度會郡三瀬村にあり

○三 櫻大刀自神社 延喜式櫻大刀自命本社何郡熊社三座の一 ○四 櫛田神社 延喜式大若子命本社飯野郡櫛田村にあり

○五 大山祇神社 延喜式大山祇命 本社宮山の内にあり ○六 川原神社 延喜式月讀神魂 本社同郡佐八村にあり ○七 伊賀津知神社 延喜式大山祇命 本社宮山の内にあり

崇めやヿ又両宮を天神地祇とし則天地の父母と合せ祀奉りにも似より
又云凡て神代のすれ日本紀神代巻をれて證とするより外ほと説る
又事々物々に諸説紛々として人々の意をれて解する事く信ずる
に足らぬ故ふつて百億萬歳の昔を論ずる程のたとへば瞭説て蔑と語
に篤し強て意を張て臂を聳すは笑ふに堪より　西行の歌とて

何事のおはしますかはしらねどもかたじけなさになみだこぼるる

みむせ河の哥に
何の木の花とはしらず匂ひかな

此意にめでて今も尚此に詣する遠津国の人の心を問に実に何事のお
はしますかしらねども千里の海山を経て来るといへどもいくたびか寳を捧
にもあらねば唯一向に雛のことそ萱へる此をれて思ふに親の子をおも
ひまうさ孝子は親に仕ふるも雪中の筍をもとむる心にはまる千里のあ
ふさなうともいふぞうも遠しとせんや是人間の実心は必数るを待て
知るものにあらねば不謂性善則神明のまし世の人主意なし尊さする利を

り給ふ推べし

○手力雄　此神は岩戸を引開き給ひし強力の神也 一説に曰タチカラとは田祖の義之秋実を帝へ貢る税を古語にチカラとなんいふ。末社の内懸税の神社といふは疑ふらくは是也

○𢭏幡千々姫は　神代巻下云 天照大神の御子天忍穂耳尊の御妻にして高皇産霊尊の女也 一説云𢭏は白布にして割て糸に制する也其糸を以て機を織の義を以てし千々は衆を豊秋津とは又同じく大衆を統乃義を以て衣を成す故に又万幡豊秋津姫とも云されば相殿の二神は田祖又糸本の男女二神成給ふ神なりと云となん

○御鎮座の事　日本紀一書云 日の神岩戸を開て出ませる時鏡を以て其窟に投全てうべ戸に觸て小瑕付り今に尚存を此即伊勢に崇秘之大神也云云 尚神武天皇以来代々此御鏡同殿にをませ給ひけるが人皇十代崇神天皇の御宇神威恐れ給ひ天の香山の荒金をもて鏡劔を鋳なしらる温明殿におがめ内侍所宝劔と名付内裏にとどめ神代よりの鏡劔は崇神天皇六年己丑秋九月に御女豊鍬入姫を附奉り大和国笠縫の邑に付て磯城の神籬を立てまつる其後大神の教によりて豊鍬入姫大神を戴奉り国々によき宮所を求め給ふに年老給ひしによりて人皇十一代垂仁天皇

瑞珠盟約
天照大神の弟素盞烏尊ハ生質勇
悍ふして甚不道之ありしが宇宙ニ君
として臨むべからざるにて二神の勅に
よりて根の國へ逐やり給ふ尊ハ先
ひ姉高天原の姉の君ニ見へて
後永く退くべしと雲霧を蹴立て
て天ニ詣り給ひけるにも又盟ひ書文を
大神ニ尊の剱を咀嚼て田心姫湍津姫
市杵嶋の三女を生じ給ふ尊ハ大神の御統
の瓊をこひうけて是を正哉吾勝々速日天津
彦根活津彦熊野櫲樟日の五男を
生じたまふ
是天地の気化によりて
人の生ずるの義なり

かるを〔晃瀲霖濯不晩の故に日光の霧晴ぬるによれり〕此にせひく八十萬の神天の安河原に集會して其携べき方便を思兼神に計て〔思兼とは思慮が別して人と異なるなり俗に云ち恵者なり〕常世乃長鳴鳥に長鳴せしめ〔鶏之これは東方明んと手もちなるもとを示なり〕手力雄の神を磐戸の側に立せ天津児屋根命太玉命ハ香山の眞坂樹を根百株抜しし上の枝に多く瓊の統ぎるを懸中の枝には八咫の鏡を掛け下の枝には青幣白幣なを懸て天の細女命茅纏の矛をもせ岩戸の前に俳優し〔児屋根命ハ河内平岡又春日に祭祀太玉ハ大和高市郡に祭りて共に臣家の神なり 瓊鏡幣ハ其わくりを薮路なる本も神前に飾れ結構寄兼なる物を御雅楽のならにかざりとそ○俳優のワサハ態之ヲキハヲギノリの因にて御機嫌とりて其言なり神楽むるとスヲギノリハ携るもなり今も神の前に楽然ハ猿楽ツ〕鬘とし蘿を以て手繦とし〔ヒカケハ蔓なり〕庭燎を多くたき覆槽をとどろにして神明憑談を〔ウケとハ槽をうつむけしるもの今採巫女が弓にて神まつじもる具のおこしかんなぎとは其槽とうつ人にて神のひうつりて人に物ひ示るをとるに一書に云弓六張をならべ琴とせしるとぞ〕の混ど〔いひえ又ウケとは祈ひのなるそ今俗に梓紙うけあくと云なり さればへ今岩戸の前にちらひをなせ出まをるを待て中なり〕此に於天照大神磐戸を細く開きて窺ハせけるを手力雄其御手を奉て引出し奉る中

臣の神たち端出縄を曳て復びいりまし給ふなとまをしきといひつたへたり

素盞鳴尊の髪を抜され爪を抜く罪を贖ひかの根の国へぞ逐せりけ
る

根の国とは地下の事にて抱ぐくまれざるあらふ○素盞鳴尊より簸川上よりぞ

手摩乳脚摩乳の女稲田ひめを娶り八股大蛇を退治して草薙剱を得つかまつ

出雲に宮造をし大社是なり

○扨天神地神の年数を書ては雑なるあれはこゝに天神九代かしこねの尊までいづれも

百億万歳二柱の神は二万三千四十歳天照大神は二十又一万歳是より天忍穂耳尊に至り

此御年数三十万歳瓊々杵尊は三十一万歳火々出見尊は六十三万七千八百九十二歳鸕

鷀草葺不合尊は八十三万六千四十三歳是より人皇の神祖神武天皇の御齢は大に劣らせた

まひて僅に百二十七歳

或云此百億万歳の数ハくわしくよみてハまことに邈の昔を称ふるにひとしきといはへども是

是まで神の代をみて希へんとするに是なきにしもあらじ試にいはゞ人皇十二代景行天皇筑後国

の行宮にましく給ふ時に僵れたる樹あり其長さ九百七十丈未僵れざるさきハ朝日には杵嶋の山を隠し

夕日には阿蘇の山（肥後国にある山 大宰府敏山の事）を蔽へりといふ天皇是を霊木とて此国を御木国と号給ふ日本紀是を其国

人は同じく其根株ありて其大さ今もおなじく尚海中にも入て其長サ一里斗といふ既に僅十二代の時に朽僵れたる

古木なれバ其樹の芽ぐみて以来いく程の春秋を経しぞ勘者なしバ是を測て以後八百徃万歳の寒暑を知

まじきにもあらじ又如此大樹は今もへるいくとあて近江の栗河内の栢なども其類ハ

或云天照大神ハ太陽日の神をを祭るに疑ふべくもあらざれバ天照神

を神武天皇皇統連綿の鼻祖とせば所謂日本大祖の宗廟と

掃りて八ツの石壺をならし番役ぞいの殿内の宮人

瑞三鳥居 玉串御門の前にあり又瑞三の御門ともいふ ○八重榊 瑞三の鳥居の左右に榊を編付之を玉串と名付て山向物忌内人のさし奉る殿の榊の枝数縄等ハ式法に依る

八重さかきことにさしける数そへて孫しらしのちは若衣のらん　荒木田延成

玉串御門 瑞三の鳥居の内也 子細外宮に同じ ○蕃垣御門 玉串御門と瑞垣御門との間の小門也 子細外宮に同じ ○瑞垣御門 蕃垣御門の内にあり 子細外宮に同じ

内宮正殿

天照皇大神　一座

相殿　東　手力雄命　西　万幡豊秋津姫命 日本紀ニハ栲幡千々姫

日本書紀神代巻云 いにしへ天なく地なく人もなき時ハたとへハ鷄子の牙を含るがごとく其清きものハ先天となり濁るものハ後に地となる其中に一ツの物を生ず状葦牙のごとし便化して神となる是を国常立の尊と云其余又化して土泥沙の神生じて後伊弉諾伊弉冊二柱の神生ます（イザナギとハ誘ふの言にてナハ助語ギとハ男の義にて三とハ女の通にて女の借字也 男女陰陽の耦生ずるの理を云）即二柱の神もと（陰陽の気化をもつて生ずる所の名也）天の浮橋に立て（虚空を云）瓊矛を指下し探給へバ矛の滴瀝凝て一ツの島となる是を磤馭盧島と云（オノコロとは自ら凝りなるといふの義也）これを国中の柱として（柱とは中に居る也）居給ふ

さる二柱の神の身に男といひ女といふ其元の處一ツあり是をたがひに合せて始て遘合して夫婦となり（三十八身戸ン神ノ巻ふて生じ故と巻ミえ八ヒ八合にて夫婦交合の始也）大八洲を生む（淡路洲生）（大日本今の大和國筑紫洲伊豫二名洲大洲吉備の子洲なり）又對馬壹岐島及處々の小島を産む次に海川山草木を生たまひ次に天下に主たるものなんとて日の神を生給ふ號て大日靈貴と云（天照大神の御事也）此子光華明彩して六合の内照徹る二柱の神喜び給ひくこれを天に送る此時天地相去る事不遠次に月の神を生（其光彩日に亞げり）其光彩日の神に亞て麗よ又天に送る次に蛭子を生む（此子三歳まで足立ざる故に棄よ）の世で海に次に素盞嗚尊を生む此子勇悍暴悪の神にてスサノヲノスサは荒之抽ありき意にて風をさむ如くもよめり（ノハ助字にてヲハ男之今俗に進疾男などいふがごとし）ある時（是天地のあらき暴風猶々なし霖旱時代失せ生命の死亡害をなしたまふ）日の神の御田の畔を毀ちて又新嘗きこしめす新宮に屎をけがし又神衣を織給ふ斎殿にて天班駒を剥て殿の甍を穿ちて是を投納き給へば日の神驚き梭をもて身を傷く（是までの不かハ衣食住の三ツを害するに比せり）日の神甚發慍して天の窟に幽居給ふ故に六合の内常闇にて晝夜をま

其三
標名をみて本文と合せばおのづから遠近順路の次第をしるべし
山神社
子安社
手水場

五十鈴川

其二
神風や
みもすそ川の
そのかみに
ちぎりしことの
末を
たがふな
新古今
摂政太政大臣
二の鳥井
末社

内宮宮中圖
ないくうきうちうのづ
末社遥拝巡り口
末社巡り道
石壺
八重榊
外宮遥拝
五十鈴川
僧尼拝所

正殿
東宝殿
西宝殿
御稲御倉
古殿
瑞垣御門
蕃垣御門
玉串御門
とのゐ屋
石壺
天津社
玉串石
斎王候殿

舘 橋の下の所なり鎮の義ハ外宮に同じ　祢宜宿鎮 一の鳥居先の方にあり 十員の祢宜斎戒参籠の舘舎也　神庫 宿鎮の南にあり文殿ともいふ 外宮に同じ

一鳥居 御宮の入口也外宮一の鳥居より凡十三丁余也延喜式に七里といひしハ六丁一里の例なるにて記せり是より此ハ殺仏家を禁ずる事外宮に同じ鳥居の事も前にいへり

手水場 一の鳥居に入て右の方五十鈴川の流れ之 風の宮の前の流れと猿石の方の流れとの落合之 此辺を大産といへるも上古ハ今の鳥居の外をめぐり又此所の瀬を川合瀬ともいふ落合ゆへの名なり ○猿石 一の鳥居より左の方に北岸の石壇なり 昔ハ勅使此所にて修禊なりしと云今ハなし斎宮の時此所に停りて修禊を急ぎる所也とぞ

○巌社遥拜所 猿石の次なり 本宮ハ石井の神社とて宇治今石井田にあり所也

高水上命 大水上云の児云 此神社ハ宮城の神にして俗に一の宮といふ

二鳥居 一の鳥居の次の鳥居也 勅使参向の時此所にて大麻御塩湯を献ず外宮に同じ

廰舎 二の鳥居を入左りにあり 外宮に同じ

一殿 太宮のたの方にあり 此殿ハ勅使の直會殿也一殿とハ本舎院の第一殿といふなり外宮にてハ是を又九丈殿九丈殿と云則九丈殿の二字相並ぶ古書に此殿五間とあれども今ハ三間之柱十本なる故十柱殿と俗称せり事ハ外宮に同じ

打越濱　清渚　御塩殿　立石崎

二見浦　輿玉石　鎰石 乳母懐　江村　湖音山大江寺

江神社 蒔絵明神 寵ろ者　松下　蘇民社　蒔絵松

嶼島巡覧

許母利神社　神前山　神前者　桜崎　菊立石　潜島

多易濱　伊気浦　粟皇子社　阿波良岐崎　神崎　源瀬

小濱　者下　有瀧　由曽津　宿浦　神津佐　荒礒　樋柄　礫浦　相賀

阿曽津浦　日和山　佐田濱　多羽浦　波賀地濱　酢我崎　伊良仰崎

○附録目録

神衣祭　月次祭　神嘗祭　風日祈

祈年祭　山口祭　幣帛使　践大嘗祭神祇

神寳廿一種　御装束　御船代　荒祭和祭幣帛採集のこと

御遷宮　祭主家　神宮家　叙爵家

異姓家　御巫御内人　御笥作内人　奏事始

御師　守武神主俳諧　阿漕浦再考

一元社 裏御門 小鳥居
小玉垣御門 小端垣御門
御遷宮 御池
河原神社 由貴殿
子良館 五十鈴川橋
末社 八百會遥拝所
川原祓所 落合川原
高倉殿 [從中宮]
[石辺路] 山神社
御贄小屋 一の瀬
長尾 祖板石 鮎留石
瀧祭窟 獅子岩石 家立茶屋
宮川 鸚鵡石
伊雑宮 大歳宮 猿田彦社 飯母呂社

荒祭宮 同宮前東西遥拝所
川島神社遥拝所 櫻宮
酒殿 朝庭遥拝所
僧尾拝所 風宮
瀧祭宮 瀧宮並宮
河合社 御厩
石井神社 荒木田氏社
三方石 松坂
合坂 猿田彦森
甑石 鼎石
恵利原
[石鮭胡]
楠部嶺 一宇田山嶺 笹原山嶺 弘法茶屋 天狗岩

朝熊嶽　岩舟　弁天　勝峯山金剛證寺　義朝佩刀　文殊堂
万金丹　下乗　求聞持堂　極楽橋
熊野三社　子安地蔵　阿弥陀堂　二王門　連珠橋　連珠池　雨宝童子宮
明星水　手向地蔵　経ヶ峯　龍池　寺院　芭蕉塚　稲荷社　舎利塔
開山堂　东岳和尚像　朝熊村　永松庵　秋田城之介実季墓
七社神　淺原右馬之介墓

小朝熊社　朝熊森　櫻木里　鏡宮
廣川村　鹿海社　汲合　汲合濱　被石
山田原　西行法師旧跡　隼人古墳　三津浦　三津村　舟石　五峯山密巌寺
濱荻　鷺島　さるが島　丸山　御座石　亀ヶ売　姫小松　伊勢三郎宅地　硯石
をさり石　堅田社遥拝所　出口村氏社　音無山
立石
古志松　旧城　二之巻　河崎　河辺里　二軒茶屋　黒瀬
常村子　通村　箕曲氏社　天神社　神社村
御食社　三枚橋村　大津社　小林社　御役所
大湊　神宮御厨清水　志摩屋社　八幡宮　今一色村　高城濱

目録

伊勢參宮名所圖會 五上